

報道関係各位

2026 年 10 月 21 日
株式会社インテージヘルスケア

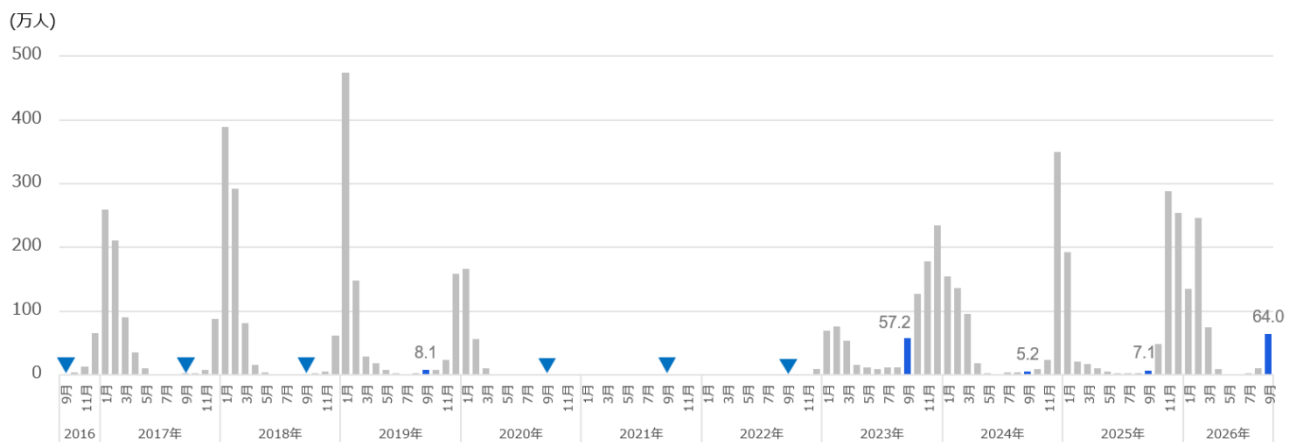
インフルエンザ治療薬処方患者、9 月に 64 万人へ急増 ～9 月として過去 10 年間で最多、年代構成にも変化～

医療情報分析サービスを提供する株式会社インテージヘルスケア（本社:東京都千代田区、代表取締役社長:村井啓太）は、独自に運用する統合医療データベース「Cross Fact」の院外調剤レセプトデータを基に、医療用医薬品（インフルエンザ治療薬）の処方動向を調査・分析しましたので、その結果をお知らせいたします。

これまで冬の感染症とされてきたインフルエンザですが、コロナ禍以降は流行パターンが大きく変化しています。前回のリリース（2026 年 9 月）では、夏場から処方患者数が急増している異例の立ち上がりについてご報告しました。今回は、その後さらに処方患者数が増加した 9 月の最新動向に加え、流行初期にみられる患者属性（年代）の特徴について分析した結果をお知らせいたします。

まず、2016 年から直近の 2026 年 9 月までの推計処方患者数の長期推移を見ると、今年の流行の立ち上がりが極めて早いことがわかります。2026 年 9 月の月間処方患者数は約 64 万人に達し、夏場から秋にかけて異例の大流行を引き起こした 2023 年の同時期（約 57.2 万人）を上回りました。9 月としては過去 10 年間で最多の水準となっており、処方患者数は急速に増加しています。コロナ禍以前の 9 月は患者数がごくわずかであったことを踏まえると、現在の状況がいかに特異であるかが浮き彫りになります。

■インフルエンザ治療薬 推計処方患者数推移（2016 年 9 月～2026 年 9 月）



出典：「Cross Fact」（株式会社インテージヘルスケア）

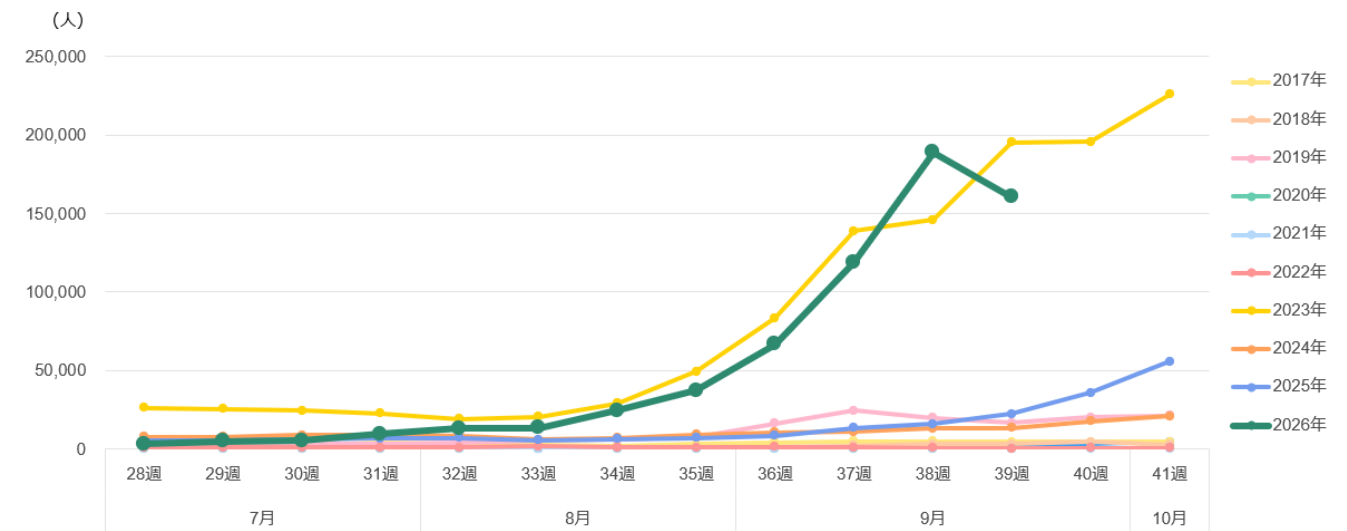
院外調剤薬局で調剤可能なオセルタミビル、ザナミビル、ラニナミビル、バロキサビルを処方された患者を対象として分析

続いて、夏から秋（第 28 週～第 41 週）にかけての週別の処方患者数を各シーズンで比較し、より詳細な動向を見ていきます。

前回のリリースでもお伝えした通り、今年の流行はお盆明けの 8 月中旬（第 34 週）から明確な増加傾向に転じました。グラフを見ると、9 月に入ってから増加の勢いが強まり、第 36 週以降はより顕著な伸びが見られます。

特に第 38 週（9 月下旬）付近では週次の処方患者数が 20 万人に迫る水準となり、この時点においては、異例の大流行を引き起こした 2023 年の同時期をも一時的に上回る水準を記録しました。最新データである第 39 週ではいったん減少に転じたものの、2023 年に並ぶ過去 10 年間でも極めて高い水準で推移しています。例年であれば流行の兆しすら見えない初秋において、すでにこれほどの規模で処方患者数が確認されていることは、例年とは大きく異なる動きと言えます。

■インフルエンザ治療薬 週別推計処方患者数（第 28 週～第 41 週比較）



出典：「Cross Fact」（株式会社インテージヘルスケア）

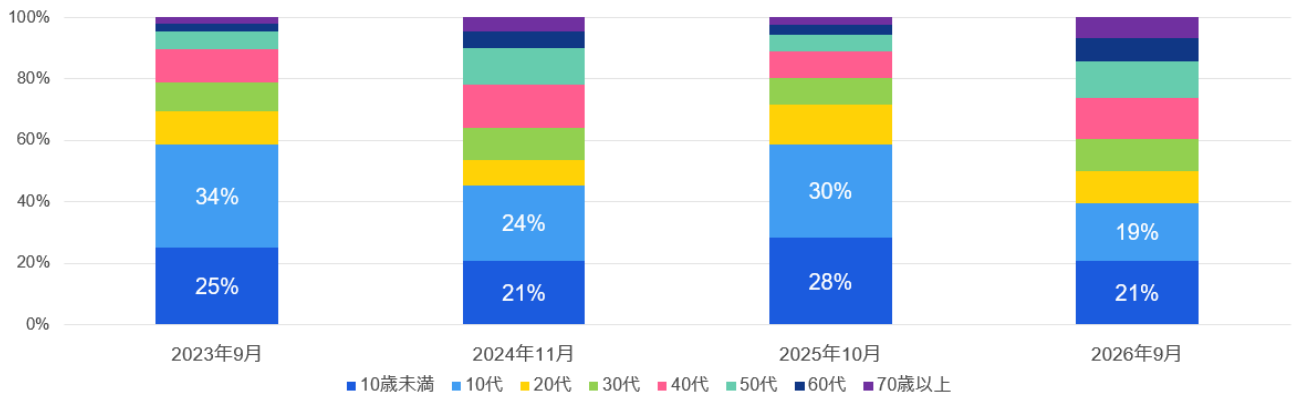
院外調剤薬局で調剤可能なオセルタミビル、ザナミビル、ラニナミビル、バロキサビルを処方された患者を対象として分析

さらに今回は、過去の各シーズンにおいて「処方患者数の増加が顕著となった月（2023 年 9 月、2024 年 11 月、2025 年 10 月、2026 年 9 月）」における処方患者の年代分布を比較し、今年の流行初期の特徴を探りました。

年代別分布を比較すると、今年の流行初期には、過去の流行開始時期とは異なる特徴が見られます。2023 年 9 月および 2025 年 10 月は、「10 代」と「10 歳未満」の若年層が全体の約 6 割を占め、特に若年層に偏った年代構成となっていました。一方、2026 年 9 月は若年層の割合が約 4 割にとどまり、中でも 10 代の割合が過去の流行開始時と比べて低いことが特徴です。その一方で、「20 代～50 代」の現役世代が占める割合は相対的に高くなっています。

年代構成は、比較対象とした過去のシーズンの中では 2024 年 11 月に比較的近い傾向が見られます。年代構成が近いことだけをもって今後の患者数も 2024 年と同様に推移するとは判断できませんが、年代構成の変化とあわせて、患者数の推移を継続的に確認する必要がありそうです。

■インフルエンザ治療薬 処方患者数の増加が顕著となった月の患者年代分布（過去 4 シーズン比較）



出典：「Cross Fact」（株式会社インテージヘルスケア）

院外調剤薬局で調剤可能なオセルタミビル、ザナミビル、ラニナミビル、バロキサビルを処方された患者を対象として分析

2026 年は過去 10 年間と比較しても極めて速いペースで処方患者数が増加しています。今後、本格的な冬の到来に向けて、処方患者数が全国的にどのように推移するか、引き続き注視する必要があります。また、今年は過去の流行開始時と比べて 10 代の割合が低く、幅広い年代で処方患者が確認されていることから、今後、年代構成がどのように変化するのかについても注視する必要があります。

今後もインテージヘルスケアでは、感染症をはじめとする疾患や処方の動向を『Cross Fact』で迅速に捉え、タイムリーな情報発信を続けてまいります。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社インテージヘルスケア ヘルスケアソリューション事業部 Rx 営業分析部 鈴木、鹿島田

Eメール: pr-ihc@intage.com Tel: 03-5294-8393(代)

株式会社インテージヘルスケア 会社概要

会社名 : 株式会社インテージヘルスケア

所在地 : 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ 13 階

代表者 : 代表取締役社長 村井 啓太

設立日 : 1994 年 12 月 15 日

資本金 : 1 億 4,540 万円 (株式会社インテージホールディングス 100%出資)

事業内容 :

株式会社インテージヘルスケアは、医療・ヘルスケア領域のマーケティングリサーチとデータサイエンスサービスをコアビジネスと位置付けています。インテージグループのヘルスケア領域を担う各社※と一体となり、データ分析・活用によるソリューションを提供。ヘルスケア領域のあらゆる課題に対して、「医療消費者」起点のデータの価値化による、最適な意思決定をサポートしていきます。2026 年 7 月、インテージグループの医療リアルワールドデータ事業を統合。国内最大級の医療リアルワールドデータベースの知識、分析の融合により、新たなソリューションや付加価値の創出を目指します。

※ 株式会社協和企画、株式会社プラメド、Plamed Korea Co., Ltd

URL : <https://www.intage-healthcare.co.jp/>